

# なんもく 山村ぐらし通信



引退した給食センター正面

ふと学校給食を思い出すことはありませんか？私には時々思い出しては、ほっこりする気持ちになりま

す。鶏レバーの甘辛煮が意外と好きだったなあ。とか、好きな男の子には大盛でよそってあげたなあ。とか。教室で机を向かい合わせにして食べる楽しいひととき「給食」。南牧村ではそんな学校給食事情が今年度から大きな転換を迎えたこともあり、学校給食の今と昔を少し探ってみることにしました。

南牧村の学校給食の歴史は、昭和38年9月よりミルク給食が開始となったこと

から始まり、給食センターは昭和42年に設立、同年4月17日より完全給食が開始されました。

待ちに待った給食。そのおいしさにビックリ。教室に和やかな空気が流れる。など、当時の給食への喜びの声がたくさんあがったそう

す。ちなみに当時の提供給食数は小中学校 尾沢・月形(磐戸)合わせて1906食もあり、現在の提供数63食は当時の30分1以下になります。少子化や村の給食センター老朽化などの現状もあり、今年度から下仁田町学校給食センターに委託された南牧村の学校給食。毎日、下仁田町から搬送されてくる給食が提供されています。南牧村学校給食センターが廃止になる前に、一度だけ厨房見学をさせていただきました。そのとき、栄養士さん調理員さんとも戻ってきた食缶には食べ残しもなく、いつも美味

しかったと言ってもらえている。と、誇らしげに話してくれました。実際に周りの方からも、南牧村の学校給食は美味しいと聞いていましたし、その日のメニュー

## 子どもたちの食を支えた給食センター

南牧村の学校給食今昔話 ～植田レポート～

およそ半世紀、50年にわたって南牧村の子供たちと時々先生方にお昼時が近づくにつれ膨らんでくる大きな楽しみを、その期待を裏切ることなく提供し続けてきた給食センターが、惜しまれながら引退！食文化には少々うるさい私・植田が、村の学校給食事情の今昔を渾身の？レポートにしてみました。



現在の給食 10/16メニュー

これまでの学校給食の歴史を刻んできた機器たちは、3月31日をもっての廃止にあたり、村内の他施設や団体に受け継がれました。私も参加している加工研究会では、煮る、焼く、蒸す、乾燥の設備があったスチームコンベクションという機器を譲り受け、今まで作っていたような加工品が製造できなくなった。地粉を使ったパンや焼き芋、セミドライフルーツなどです。こうやって次の場所を受け継がれていくことにニマリしてしまいます。今までもおり愛着もって大切に使用して頂きたいと思えます。最後に給食にまつわる想いを語って下さった皆様、この場を借りて感謝申し上げます。

2017(平成29)年11月発行  
通巻第23号版(秋季号)

発行責任者及び発行元：  
南牧山村ぐらし支援協議会  
問合せ：南牧村役場  
村づくり・雇用推進課  
協議会事務局  
電話：0274-87-2011(代)

紙面編集：広報FM

協議会QRコード

協議会HP  
<http://nanmoku.org/>  
活動内容や各種情報が随時更新中！

有楽町・交通会館3階  
5県合同移住相談会  
**南牧村もブース参加!**

9/30(土) 東京有楽町・交通会館3階グリーンルームにおいて、新潟 福島 茨城 栃木 群馬の5県共催の移住相談フェアが開催され、群馬県からは前橋市・中之条町・南牧村がブース

参加。相談地域が広く相談者が分散したこともあり直接南牧村のブースに相談に訪れたのは6組6名。村の担当職員と協議会メンバー1名で対応に当たりました。3年前は移住相談会の反対側の席に座っていたのを思い出します。南牧村以外の自治体でしたが

【29年度7～9月 空家問合件数】

電話による問合せ7件
(7月 3件)
(8月 1件)
(9月 3件)
メール・手紙・FAXでの問合せ22件
(7月 7件)
(8月 10件)
(9月 5件)
現地物件見学案内19件
(7月 6件)
(8月 10件)
(9月 3件)

【協議会ウェブサイト 訪問・閲覧状況報告】  
※7/21～(約90日間)

ページ閲覧数 105,945  
サイト訪問数 8,045  
サイト訪問者数 5,340  
(同一人は1とカウント)  
平均ページ閲覧数 1 訪問当たり13.2ページ

## 我・想・明・村

～そんな私もけっこうな歳になりました～

近所の高齢のご婦人が数年前、都会で暮らす息子さんに連れられ、住み慣れた自宅をあとにしていきました。行く先は息子さん暮らす街にある高齢者ケアホーム。初めのうちは年に数度、村に残してあるお墓参りを兼ねて帰ってきていたご婦人でしたが、いつからか年に2度になり、一度になり、息子さん運転する車で来て車から降りることができないほど足腰が弱り、ひとりで暮らしていた頃はかくしゃくとして掃除から洗濯、食事の支度に近所の友達宅を訪問してお茶のみ話と、何かから何までをこなす年齢を感じさせないほどでした。

## からしだね

轟音と共に流れ下る南牧川。梅雨時期と秋の季節に毎年繰り返される自然の営みは、何百年、何千年という時を経て深く地表を削り上げてきました。たった一粒の水滴が何万年という時をかけて岩を穿つ。うがつ。ように、地球にとつては在るか無しの皺を刻む。なんとも辛抱強い作業なのです。いつときの花火には夢中になれるもので、またその余韻には少なからず中毒性というものがあろうです。ただ黙々と思いを頼りに事を進めるには、華やかな花火よりも、コツコツとした岩をも穿つような控えめな頑固さが必要なのかもしれませんね。



# タイムマシンなんもく号

むか〜し昔、わたしたちの住む南牧村には・・・



砥石の砕石場（南牧村・砥沢）

昔々、私たちの住む南牧村には、幕府御用達の必需品がありました。沼田砥、虎砥と呼ばれる砥石です。16世紀半ばから、20世紀半ば頃まで全国有数の砥石産地でした。特に戦国時代、刀を研ぐのに重宝されたようで、砥沢で採れた砥石は、下仁田、富岡、藤岡の発展にも大きな力を貸したようです。大正14年から曾祖父の喜三郎さんが砥石採掘事業を行っていた浅川礼太郎さんにお話を伺ってききました。最盛期は砥沢の人口が500人。その8割が砥石に関わっていたといいます。月に9回開かれていたという市は、働く人々の生活を支えま

した。浅川さんの家と共に砥山の事業を行っていた富岡の金物屋さんには、当時の写真が絵はがきとして残っていました。私の祖父や、父も働きに行った事があるという砥山。人工の砥石が作られてから衰退しました。砥沢で開かれていた市も無くなり、当時の賑やかな様子はありませんが、切り出された荒々しい岩肌を見ていると、働いていた人々の息遣いが聞こえてくるようです。近くには、砥切職工の氏神として祀られた砥沢神社が残されており、栄えていた当時の雰囲気

を伝えてくれます。南牧の冬は薪です、岩井特派員寄稿



採石場前で一枚

**冬**の語源は、いくつもある。冷えるという意味の「冷（ひ）ゆ」という言葉。寒さが威力を振るうから「振（ふる）ゆ」。寒さに「震（ふる）う」。そして「殖（殖）ゆ」。冬でも数を増やす生き物たち。増殖や繁殖など、生き物が増えるさまを表す語には「殖」という漢字が使われている。生き物が「殖（殖）える」から「殖（殖）ゆ」。英語の「winter（冬）」は、「white（白い）や、wet（湿った）」が語源である。

## 冬の話

white, wet, winter

南牧村の冬は、寒さが猛威を振るい身体は震える。でも雪国のように白い世界になることは珍しく、湿（ぬ）気も少ない。湿った冬は西欧のある地域の特徴のようだ。湿（ぬ）っては、きりぼし「平（ひら）し」がカビてしまう。寒さに当てないとネギは甘くならない。気象庁が発表した3か月予報によると、今冬は「平（ひら）年並み」または「平（ひら）年より晴れの日が多い、気温が高い。」どうなるかな…

## 『ぶらいなんもく村』

～いぬむきふどう編～

滝落差 (40m)  
所要時間 (約50分)



去る7月15日、行って参りました。威怒牟巖不動（いぬむきふどう）線ヶ滝の先の駐車場に車を止め、そこからは約50分間、山道を歩きます。途中、湧水の水飲み場があったり、木漏れ日が美しかったりと、なかなか気持ちの良い道中でした。

大沢「一心」という方のお墓を過ぎてしばらくすると、あずま屋が現れ、その目の前の断壁の中腹に威怒牟巖不動がありました。滝の裏側にあるということでしたが、この日の水量は少なく、まるでスプリンクラーの水が崖の上から降っているようでした。滝めぐりガイドに載っているような風景を見るため、再度訪れようと思います！

現地にある立て看板には「修験道の修行の場であり大正時代はにぎわった」とありました。説明の中に「大沢「一心」は有名」とあり、この地主さんのじやなくて、有名な修験者のものだったんだ」と知りました。ただ、どう有名だったかについては、調べてみても分かりませんでした。滝の裏側を歩き、建物もいつても、ほとんど壊れていて、跡ですが）に向かうと、壊れた社の中に小さなお不動様が祀られています。ご本尊は星尾の吉祥寺にあるとのこと。建物はなくなっています。が、なかなかのロケーションです。断壁の中腹にあるところは、かの国宝、鳥取県三徳山の投入堂を彷彿とさせます。このまま朽ちさせるのは惜しい！と思わせるパワースポットでした。それにしても、威怒牟巖不動の名前の由来や、大沢「一心」なる人物など、謎が多いところ。みよし協力隊員寄稿

## 農業はじめました！

移住歴10年 志賀 正さん



冷やし中華はじめました！

みたいなタイトルになってしまいました。今年、今年から本格的に南牧村で農業を始めました。南牧村に移住した10年前から猫の額ほどの自宅の庭で農薬・化学肥料を使用しないでミニトマト、インゲン、唐辛子、カボチャ、ミョウガなどを栽培していましたが、もっと広い場所を色々栽培してみたいと一念発起して仕事を辞めて農業に転職しました。始めるにあたり、周りの知り合いからは「農業は大変だよ」と散々聞かされてきました。実際に半年間栽培してみ

たが、今年、今年から本格的に南牧村で農業を始めました。南牧村に移住した10年前から猫の額ほどの自宅の庭で農薬・化学肥料を使用しないでミニトマト、インゲン、唐辛子、カボチャ、ミョウガなどを栽培していましたが、もっと広い場所を色々栽培してみたいと一念発起して仕事を辞めて農業に転職しました。始めるにあたり、周りの知り合いからは「農業は大変だよ」と散々聞かされてきました。実際に半年間栽培してみ

その通りでした。鹿などの被害にあったり、野菜が病気にかかってしまったり。旬の野菜は農家さんが一斉に出荷するのであまり値が付かないことも。これで生活が成り立つのだろうかと思うところもある。しかし何故か農業を辞める気にはならない。失敗してもやりたいことが次々浮かんでワクワクしてくる。思いついたことを忘れないうちに試してみたくて早く時間が経たないかな、とどこかしきりもある。また、気にして声をかけてくれたり、アドバイスを頂いたりなどの気が栽培した野菜を販売してくれる人や購入してくれた方との会話が糧となる。農家としては、まだまだ初心者であり、経験や知識は明らかに不足しています。冷やし中華はじめました」が夏の到来を知らせるように、数年後には「志賀さんちの野菜が待ち遠しいね」と言っていただけのような、季節を知らせる野菜を作っていければと思います。どうぞ、よろしくお願ひ致します。

## 編集後記

編集作業中に、思わず漏れた。ため息ではない。家の中でおこなう、息が白いかの確認だ。コタツに入り、パソコンの画面と向き合う。へえ、給食センター加工研究会で活用されているんだあ！へえ、市が月9回も開かれてたんだあ！。コタツに入りながら、皆様「へえ」と言ってくれるような紙面になっ